



新1号館外観

号館よりの東急建設(構造・電気・床面積を倍空調・衛生設備)、五島程度拡げ育英会総務グループ(施設担当)、新築および既存校舎の解体工事の施工を東急建設・大成建設JVが担当。

神事場では、五島育英会の安達功理事長、同

新1号館が竣工

環境配慮で吹抜を採用

東京都立大学

東京都立大学(北澤宏一学長)は21日、約3年間の2期工事を経て完成した新1号館新築工事の竣工式を世田谷キャンパス内の現地で執り行った。新校舎は教室や研究室のほかに、学生の生活や就職を支援する「総合インフォメーションエリア」を新設するなどキャンパスの中核を担う複合施設となっている。また、環境に配慮した構造や設備を積極的に採り入れている点も特徴的だ。

建設地は世田谷区玉堤1・28・1、同学世田谷キャンパス内北側。敷地面積は2万3971・15平方メートル。施設規模はRC造一部S造地下1階地上4階建て延べ1万4988・04平方メートル。旧1



安達理事長による玉串奉奠

設計監理は東急設計コンサルタンツ(建築)、コンサルタンツの酒井誠学長の北澤学長、東急設計取締役常務執行役員、東急建設の飯塚恒生代表取締役社長、大成建設の安川英利専務執行役員が玉串を捧げた。その後の直会で挨拶した安達理事長は「本学の中枢機能となる施設が誕生したことは今後の大学運営や都市大グループの展開に極めて重要な意味をもつ」と関係者らに感謝の意を述べるとともに、「今後も教育環境の充実、展開を図っていく」との抱負を示した。北澤学長は「学生たちの学びの環境とリラックスできる空間が造り込まれている。地域に対しても開かれた環境をつくってほしい」と力を込めた。

設計監理は東急設計コンサルタンツ(建築)、コンサルタンツの酒井誠学長の北澤学長、東急設計取締役常務執行役員、東急建設の飯塚恒生代表取締役社長、大成建設の安川英利専務執行役員が玉串を捧げた。その後の直会で挨拶した安達理事長は「本学の中枢機能となる施設が誕生したことは今後の大学運営や都市大グループの展開に極めて重要な意味をもつ」と関係者らに感謝の意を述べるとともに、「今後も教育環境の充実、展開を図っていく」との抱負を示した。北澤学長は「学生たちの学びの環境とリラックスできる空間が造り込まれている。地域に対しても開かれた環境をつくってほしい」と力を込めた。

この一方で、既存改良も継続して実施。現在区道を挟んで北と南に敷地が分かれているため、学生の利便性や安全性の確保が課題となっている。この改善策として、分断敷地の中間に位置する7号館を今夏に解体し、オープンスペースとして利用する方針。また将来的に、北側敷地にある新1号館から対して南側に建つ図書館を2階部分で接続するブリッジを架ける計画もあり、現在世田谷区や関係各所と協議を行っているところ。新1号館の計画部分へは橋を増設できる構造を準備している。

■この記事・写真等は日刊建設産業新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会